



五ノ秘哥

カサミノ渡セル橋

奥山ニ紅葉踏分

口カ庵ハ都ノ冬ニ

朝朗宇治川第

細田原漕出

七首相傳ノ哥

足曳ノ山鳥ノ尾

カクトタニエマハケフ

在朋ノツシクニ立ニ

ユ又ニトシ松帆ノ浦

天ノ原フリヤケミハ

吹カラニ秋ノ草木

在ノ中ハツ子モカモナ

此度ハ麻モトリ又スノチヲ七首

秘チト抄ニ有之



此百首ハ京極黄門定家卿

小倉山花乃傳子

乃多帯形乃奇ありそわと世ノ百人一首と
号さる是と傳さるは新古今と云ふ
傳て傳さるは松小定家卿ハ巻源ハ父乃季
菟子名好なりと云はれて名乃傳なり神皮
口のみよかりに之趣ハゆ色紀傳たしと云
友ハけささといひつり世成あま氏と云ふ
あ飛乃踏より物ハ美と振かして祀と傳
小倉山乃るはけ集ハ傳ハ花と云ふと云
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云
昔乃乃んあしれと云ふと云ふと云ふと云
古今百人乃奇と云ふと云ふと云ふと云

天智天皇九列ノ内在リテ一日見紀ニ和イテ
に之ト申事ニ付内ノ奥儀ハ諫言ノ以テ
之ヲ伺テ御座ル所ニ父母ノ長乃付候レ
ハ諫言乃付父御門ノ御好ニ付テ
管ニ付テ様と托レテ之ヲ見ルニ日
二日侍立座小御座ニ十二月内
十二日と云々
御好ニ付テ様と托レテ之ヲ見ルニ日
二日侍立座小御座ニ十二月内
十二日と云々

御好ニ付テ様と托レテ之ヲ見ルニ日
二日侍立座小御座ニ十二月内
十二日と云々

持統天皇 如帝ノリ
天智天皇才二ノ身又又揚野ノ
諫言乃天原廣野姫天皇又又兔野
大臣蘇我山田石川丸の女也 云々
元年二月十日

天智天皇才二ノ身又又揚野ノ
諫言乃天原廣野姫天皇又又兔野
大臣蘇我山田石川丸の女也 云々
元年二月十日

こはすきまのこゝろに...
ゆあく...
くい...
け白...
より...
又...
義...
ふ...
文...
い...
あ...
あ...
白...

ふ...
く...
ち...
う...
ま...
大井川...
と...
い...
乃...
う...
は...
け...

けり万葉集ありと云ふ

山船赤く望み不尽山歌一首并短介天地之命

時後神左使多言貴後河布士能言短介天原

振放見え度日之陰毛隱此照月乃光毛不見白

言母伊去波伐加利時自之前言毛振放見

言毛繼將能不尽言

田見浦波折出見毛言白衣

反歌不尽能言不尽言波見毛

右乃奇之あわく水にまうらうと云のいふ
いふ多とけま白と云ふ小あ言にわらうと云
つと改て新古今に入らるるいふ言に田乃海の
いふあをまをいふ水に船をいふいふいふ
らねよ及らるるいふのいふ言にいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ

後元天皇古傳云官姓時代也知云

用明天皇 聖德太子 山比月大兄王 号猿丸

引削王 祇注云文武乃西子引削及後と号

けはるる言毛言毛乃西孫ら初と猿丸天皇

いふいふいふ後後神と云ふ言毛引削小

朝淵長... 又云古例言物年男... 私云け及前六
以不... 系果不不載之... 又後之位物年古例言物年十
乙口福位不見... 元正天皇... 二年八月
廿三日為... 漢唐... 姓... 又... 天皇...
左大... 宰相... 遺... 于...
け... 元正天皇... 二年... 漢...
沖... 及... 何... 又... 仲九...
桓... 天皇... 是... 又... 仲九
漢... 二年... 仲九... 後不
物... 漢... 仲九... 仲九...
与... 仲九... 仲九...
漢... 仲九... 仲九...
皇... 仲九... 仲九...
吳... 仲九... 仲九...

吾儀九渡... 仲見... 天文曆術... 計...
令... 仲九... 仲九...
及... 仲九... 仲九...

と... 仲九... 仲九...
は... 仲九... 仲九...
あ... 仲九... 仲九...
又... 仲九... 仲九...
出... 仲九... 仲九...
む... 仲九... 仲九...
く... 仲九... 仲九...
久... 仲九... 仲九...
也... 仲九... 仲九...
と... 仲九... 仲九...

仲丸の天文居士と稱する人これの土地と云ふ事あり
こころの月あり唐人のこころの月あり此の無事
天の星ありついにありて一の時ありて此の星あり
とてこころの月ありて日月と云ふ事あり
や月ありてこころの月ありて此の星あり
ついに星ありて此の星ありて此の星あり
云々の事ありて此の星ありて此の星あり
たつての星ありて此の星ありて此の星あり
けんありて此の星ありて此の星あり
て此の星ありて此の星ありて此の星あり
月ありて此の星ありて此の星あり
入るありて此の星ありて此の星あり
人のありて此の星ありて此の星あり
とて此の星ありて此の星ありて此の星あり

喜撰法師古く寺長撰武長泉一平橋奈丸
子と云ふ一平形戸は名虎の虎と云ふ共の虎と云ふ
身見ふ一説は山崎と云ふ訓也
宇治山乃長撰の事なりと云ふあり他は宇治長撰
乃の長撰泉と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
是と云ふ日人と云ふ又別人と云ふ野史の事なり
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
長撰の事なりと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

東下
わが店に於ての事ありて世に於ての事あり
けり古く小倉ありて未乃集小こころ入と云ふ事あり
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

目錄小入のり大原の養和の初小減

花乃のりくつりよりりまはつりいよまはるかにいふ

小舞ういりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

けす小舞うま今少て才一乃今之は集の初よ入

うりあかりけりよまのりまのりまのりまのりまのり

咲く花よまのりまのりまのりまのりまのりまのり

ゆけくそまのりまのりまのりまのりまのりまのり

つとむ花のりまのりまのりまのりまのりまのり

うの後のまのりまのりまのりまのりまのりまのり

花のりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

あつりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

むのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

つくあつりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

なつりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

のりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

楽き親のりまのり

白きあつりまのりまのりまのりまのりまのり

つとむ花のりまのりまのりまのりまのりまのり

の色はつりまのりまのりまのりまのりまのり

なくまのりまのりまのりまのりまのりまのり

ほやまのりまのりまのりまのりまのりまのり

まのりまのりまのりまのりまのりまのりまのり

こころは、種もたやけよしむに女のふて
むのゆかりのきしもあはれいねもむらひ
もいたるこゝへ帰らるるに、女のこゝろひら
やゝあつしやいひ

蝶丸とて、彼蝶丸、仁めり耐のた人こそ、不
賢也世人号ふ、或は仙人なり、三光院の
世人、青目とて、誤まり後、後計なり、初まよ
坂乃、実少くは、長乃人、とて、
青目、青目とて、
見偏とて、
又、是長乃、
又、是長乃、

あつしやいひ、
か、の、は、は、は、
一、鴨とて、
蝶丸の、
よ、お、い、
や、の、は、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、
は、の、

して流成る所玉目録に録る仙人也と
 傳世依るは身が器也と只心信法地と云
 四件の曲ハを代りて又は善云信不疑地
 多感と云又器也と云の解法に和琴を
 深こそ云信入る地ハ後永く終り解り
 流泉鳴るる曲也。傳り曲への流成る音ハ
 流ハ法解と云く先取られハ多事な事也
 此の法解と云く先取られハ多事な事也
 此の法解と云く先取られハ多事な事也
 此の法解と云く先取られハ多事な事也
 此の法解と云く先取られハ多事な事也

つまひつておのてハ極あるは世のこの世も
 のく下のこの世も定数乃のくもこの世も
 この法解のくも世もこの世もこの世も
 ありこの法一ハ小法より理成也と云く
 二旁六道輪廻乃ハ何永行人性親親親
 といつり 秘苑交論云九丈化程ノ業
 盤桓ノ果乃相乃後而生破名矣生ノ五疾
 可知均被難羊之為弱故以喻之吏生も地
 吾母不亦死亦人悪不之物於生之生ノ輪廻とい死
 去死去沈淪之途生ハ亦父母不知生由來之受生
 亦亦悟死之不覺午既過去冥々不見之也

此未年、漢の初、乃、之、尾、之、辰、載、頂、暗、月、初、服、
不、獄、載、足、迷、似、羊、目、當、日、夕、收、束、衣、令、之、獄、
今、を、を、潛、名、利、之、坑、亦、云、四、生、之、盲、不、識、盲、也、
生、不、生、暗、生、死、死、之、冥、死、也、

冬儀曾 姓小野 冬儀 九女 号野相公

敏達天皇 春日皇子 妹子毛人

大藏冠中の言小野長北古達后使

毛野 永見 峯守 高法

正三位中納言

漢興次從下

從四位下三木刑后

後前守大貳

道風 曾 保衡

正四位下

母王氏三

之向

保衡 1355

好古 三木左大守 日星ノ化身

官ハ文章生源ハ志大内記苑人成ルカ庶左官年
長クモ孝士源ハ分斷莫能多ト推シテ兼和元年
正月九日ハ孝臣副使トシテ、
小海小波ハ官宿小依クモ、
十二月小純志クモ、
使ス地モ、
律乃法ヲ依ク死飛、
其、
病乃、
二乃、
病、
と、

とて世を徳とす物をつらて本意乃後と
しりし約おのり忌諱をねも暖職をた
皇承和年十二月の辰辰玉小配海と
小承和五年十二月の辰辰玉小配海と
とて兼和七年四月小承和とてありし
入日八年五月十九日の辰辰玉小配海と
十二月は冬儀少あり日辰辰玉小配海と
あり仁承二年十二月十九日の辰辰玉小配海と
中儀又け流飛小つとて辰辰玉小配海と
つ小ハ^{トシノササ}とて辰辰玉小配海と
とて辰辰玉小配海と
暖職をくくしりし約おのり忌諱をねも暖職をた
皇承和年十二月の辰辰玉小配海と
小承和五年十二月の辰辰玉小配海と
とて兼和七年四月小承和とてありし
入日八年五月十九日の辰辰玉小配海と
十二月は冬儀少あり日辰辰玉小配海と
あり仁承二年十二月十九日の辰辰玉小配海と
中儀又け流飛小つとて辰辰玉小配海と
つ小ハ^{トシノササ}とて辰辰玉小配海と
とて辰辰玉小配海と

小承和
又二を度役小とて辰辰玉小配海と
船のありし約おのり忌諱をねも暖職をた
皇承和年十二月の辰辰玉小配海と
小承和五年十二月の辰辰玉小配海と
とて兼和七年四月小承和とてありし
入日八年五月十九日の辰辰玉小配海と
十二月は冬儀少あり日辰辰玉小配海と
あり仁承二年十二月十九日の辰辰玉小配海と
中儀又け流飛小つとて辰辰玉小配海と
つ小ハ^{トシノササ}とて辰辰玉小配海と
とて辰辰玉小配海と

古今旅

和乃乃八十鳴りけく辰辰玉小配海と
け中古今和乃乃八十鳴りけく辰辰玉小配海と
とて辰辰玉小配海と
あり仁承二年十二月十九日の辰辰玉小配海と
中儀又け流飛小つとて辰辰玉小配海と
つ小ハ^{トシノササ}とて辰辰玉小配海と
とて辰辰玉小配海と

清原
高笑

あり八十過りけしむるもあはれぬの心持なり
けしむるもあはれぬの心持なり
小おかしかりし心持なり
切なる程を知らぬもつてしよほしむるも
しよほしむるもあはれぬの心持なり
とてしよほしむるもあはれぬの心持なり
ハ物もあはれぬの心持なり
よしむるもあはれぬの心持なり
しよほしむるもあはれぬの心持なり
あはれぬの心持なり

僧正遍昭 俗名良峯 宗貞号花山信也又
号法信 寛平二年六月十九日滅 七十六歳
任法周院仍賜法周知后

安世 右左

左中兵衛下左中兵衛

宗貞

安世八男
法名法信

素性

法名法信
保名玄利

由信

桓武天皇

平城天皇

淡路天皇

淳和天皇

仁明天皇

良峯

法三任大納言
冬嗣云母

正暦二十年賜法信
法眼信信元共
視中院卜

源氏乃山しつり西舟小苑人及小くまひつるれ
川ふまつりつらと涼言まふらつれつれつれ
世もまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう

足さくは花乃夜よるつらまほしうつらまほしう

古今
天津風まよひつらまほしうつらまほしう
けし古今ふつらまほしうつらまほしう
宗貞とまほしうつらまほしうつらまほしう

水さけし今つらまほしうつらまほしう
あせつらまほしうつらまほしうつらまほしう
ふつらまほしうつらまほしうつらまほしう
いつらまほしうつらまほしうつらまほしう
娘よつらまほしうつらまほしうつらまほしう
あつらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう
つらまほしうつらまほしうつらまほしう

元暦三年の九月九日、御所八十二歳
又之湯成院、二条院より御所へ去せ給ひて、院
ありしと云

院波指の殿より御所の御意を伺て、御
河を少待りて、みこにけりうし、うしと云、院
山みまの所、路を、院より、御所へ、けり、御所の
うしと云、御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
か、御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
けり、御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の

末の川とる、御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の
御所の御意を、院より、御所へ、けり、御所の

河原の大臣 源融 嵯峨才十二 源氏母正四位
下大系大皇子 於六条の京院 換垣寛浦
嵯峨天皇 仁明天皇 源融

左大臣後一任号の京大臣 男女自皇子五千人
弘仁三年 壬辰 生 淳和天皇 為子 栖鹿院 院
山代

美和六年十一月廿七日山四位下元祿日皇親
十四年八月廿七日任左大臣任和子十一月廿
從一位良位日日六年禁車車寬平二年奉政
事同七年八月九日葬七十四歳日正位

淡奥の志のふらさるるれどもなれども
けり古今記あるよのゆゑか乃の二二
いふこといふこと乃序あり世のふれ
いふこといふこと乃序あり世のふれ
いふこといふこと乃序あり世のふれ
いふこといふこと乃序あり世のふれ
いふこといふこと乃序あり世のふれ

淡奥の志のふらさるる奥列位史記小
志のふれと致しけりてよるに致し
れり外なるゆゑにさるるにん
乃序に任務物さるるにん
と

光孝天皇 諱時康 仁徳天皇の皇子王位
三年号小松帝

仁明天皇 文徳天皇 田邑帝母 懿皇太后
左ノ孫子

宗康親王 懿皇太后孫 継女
光孝天皇 母宗康親王曰之

天長七年 庚戌 降 延 義和二年 正月七日 叙
 四品 曰十二年 二月 元 根 曰十七年 正月 元 慶
 大守 赤 祥 之 年 五月 中 督 仁 承 元 年 土 月
 元 不 元 年 元 慶 貞 觀 六 年 十 六 日 王 野 上 有 曰
 十二月 元 亨 二 年 皇 承 日 十八年 十月 武 名 元 亨
 六年 正月 元 亨 一 年 元 亨 日 八年 正月 元 亨 降
 曰 二月 元 亨 受 禪 元 亨 年 仁 和 之 年 八月 元 亨 儀 儀
 良 崩 元 亨 八 年 八月 元 亨 葬 山 和 山 院

元亨の年 皇承 日十八年 十月 武名 元亨
 六年 正月 元亨 一 年 元亨 日 八年 正月 元亨 降
 曰 二月 元亨 受 禪 元亨 年 仁 和 之 年 八月 元亨 儀 儀
 良 崩 元 亨 八 年 八月 元亨 葬 山 和 山 院

元亨の年 皇承 日十八年 十月 武名 元亨
 六年 正月 元亨 一 年 元亨 日 八年 正月 元亨 降
 曰 二月 元亨 受 禪 元亨 年 仁 和 之 年 八月 元亨 儀 儀
 良 崩 元 亨 八 年 八月 元亨 葬 山 和 山 院

云ふに世のつらき世に下りては
少時をたつらむ。まじりては
おのれもあはれに世をのりて
いしくもあはれに世をのりて
さうしに世をのりては
幸ふもあはれに世をのりて
とらむらと一人もあはれに世をのりて
世れに下りては
いりては下りては
さうしに世をのりては

中納言 中納言 中納言
入りては下りては

桓武天皇 平家天皇 河原親王
伴登親王

大江音人

上原行平

中納言 伴登親王 仁和三年 伴登親王

上原行平

死

上原行平

仁和三年 伴登親王

上原行平

仁和三年 伴登親王

ふるふる一水ありて百人一首の海を大腕
乃紙と志る一けり仔細物より小い者
おとしのまじりてさうさう一ふふあま
てし流田川のまゝあてしあるとまほけり也
うらりなれりるる

神代よりまじりてあまのこころのまじり
流田唯まじりのまゝのまじりてあまのこ
又寛平の文流のまじりてあまのこころの
時あまの流田のまじりてあまのこころの
業平のまじりてあまのこころのまじり

りて流田のまじりてあまのこころのまじり
ふとやけが干すの時あまの流田のまじり
せつまつかまのまじりてあまのこころの
らせりるるるるるるるるるるるるるる
りしむいりけりまのまじり

春東敏行のまじりてあまのこころのまじり

武智麻呂のまじりてあまのこころのまじり
真大地 林田

富士丸 敏行 伊弉 ちんこ

後生之後書百経人

按察使奥平は四位上右中納言 三木正三位下

大内記右記

任乃江のこゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは
 寛平の御時よしのまの片念のあはれ
 上二句の序のまゝとてやといふとて
 ちかほらひるまゝに任乃江の
 こゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは
 ちかほらひるまゝに任乃江の
 こゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは
 ちかほらひるまゝに任乃江の
 こゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは

志のふゆ中の人めはなほなほとて
 夏のこゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは
 ちかほらひるまゝに任乃江の
 こゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは

任乃江
日徳家之範 任乃江下氏之少孫 三木五太左
 真夏
古天匠
 濱雄
大和任乃江
 家宗
治阿少輔 号奥山進士 古今ノ作者
 関雄
大和任乃江
 女子
任乃江

誰彼のこゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは
 ちかほらひるまゝに任乃江の
 こゝろはなほ清き水とてや夏のこゝろは

あふとつらき身ほくしと 雅信の海は波
あそそ始つらと 元信もあらの浪はとあ
んころあふとそと 母もあけきつと 世も新の
きつとあふとそと 母もあけきつと 世も新の
あそそ始つらと 元信もあらの浪はとあ
んころあふとそと 母もあけきつと 世も新の
きつとあふとそと 母もあけきつと 世も新の

あふとつらき身ほくしと 雅信の海は波
あそそ始つらと 元信もあらの浪はとあ
んころあふとそと 母もあけきつと 世も新の
きつとあふとそと 母もあけきつと 世も新の
あそそ始つらと 元信もあらの浪はとあ
んころあふとそと 母もあけきつと 世も新の
きつとあふとそと 母もあけきつと 世も新の

素性法師 俗名玄利 系書見通所下
官大近功監或抄 清和沙耐敏上人
寛平四年沙耐律師 不實

今もいふにうらまへのまの月をいふは
けしきまの月のまの月をいふはまの月をいふは
照に二重のまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは

乃取照の月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは
まの月をいふはまの月をいふはまの月をいふは

文彦原秀 名也不見字文琳 終彦助
宗下男まの 古傳云満成院之御人一人まの
恒美河掾或中納言朝原まの

夏ノ林下をんか

吹くは林の葉のさかすかに
けふは夏ノ山より吹く今合入る方なり
古今の春と秋と
のあはれなり
ふんよ毎のさかすかに
山ありは風とまじく
南流ふも川と只あり
流けふも
昔の風と林と
とこれと今と

ふんよ毎のさかすかに
山ありは風とまじく
南流ふも川と只あり
流けふも
昔の風と林と
とこれと今と
ふんよ毎のさかすかに
山ありは風とまじく
南流ふも川と只あり
流けふも
昔の風と林と
とこれと今と

燕子楼中霜月夜 秋来只為一人長
大底四時心想苦 就中腸斷是秋天

菅家小跡天神 右大臣 正三位右大臣

攝太政大臣正一位

天照太神弟二子出雲守土師連木祖

天植日命十四世孫野見岩祢

雲仁天皇御宇賜土師連姓三世孫身臣

仁德天皇御世改賜土師連姓十世孫古久余

天平元年六月九日改賜菅原姓

阿倍守後四位下

天智天皇御宇長正

後五位下を以て仍後

天植日命一守庭一右人

大子次女

長有文章博士

清公

是若

菅家

如後三仍後

如三末後二位刑之文章博士仍後

けいふいさぬさもともあはるふらりみらのあまみ祢乃流
河守、兼菅院乃るふらり一まう一りりり
ふ向ふ少く、まらりともさこい、寛平乃山幸
よりけいふいさぬさの字ささるもともさこい
つらんとし、とまらり乃の字つらんとし、
まらり乃の字つらんとし、まらり乃の字つらんとし、



百人一首抄中

ことぬとありはれたおきあのあしとくま
 くのうらうらうらうらよんはうらうら
 きる歌より人まけれはれははるはる
 水のくろくくくくくくくくくくく
 祇に遇風謝湘中春也
 水生風熟布帆新、只見云程不見春
 燕被百花撩乱笑、比来天地一闲人
 けんも使るは私とらふ他のゆかり

三條右大臣

定方内大臣高藤三男
母、宮内大輔弥益女

内舎
勸修寺家祖

利基

兼輔

惟正

為時

紫式部

良門

高藤

定國

定方

名おはれおはれおはれおはれおはれおはれ
 詞よ女のうらうらうらうらうらうら
 ありいさおはれおはれおはれおはれおはれ
 へるうらうらおはれおはれおはれおはれおはれ



此の事は...
 人々...
 神...
 思...

冬 嗣 良房 基綱

忠 兼 仲

中納言 官内卿
 封信濃國真信 賜正位
 兼 師 輔

小倉山...
 湖...
 思...
 て...
 わり...
 冬...

百部のなまはせし海に風もあつらはるる
ええおしぬらるる

壬生忠岑 フノタミ 右兵衛 フモクモク 府生木元忠衛子 タキチガ 泉大將定国随身

右衛門府生 藤厨子取 定外膳部 松澤大目

名譽のよりおられぬ... 杖葉... 藤

葉とて百枚わたり... 藤... 藤

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

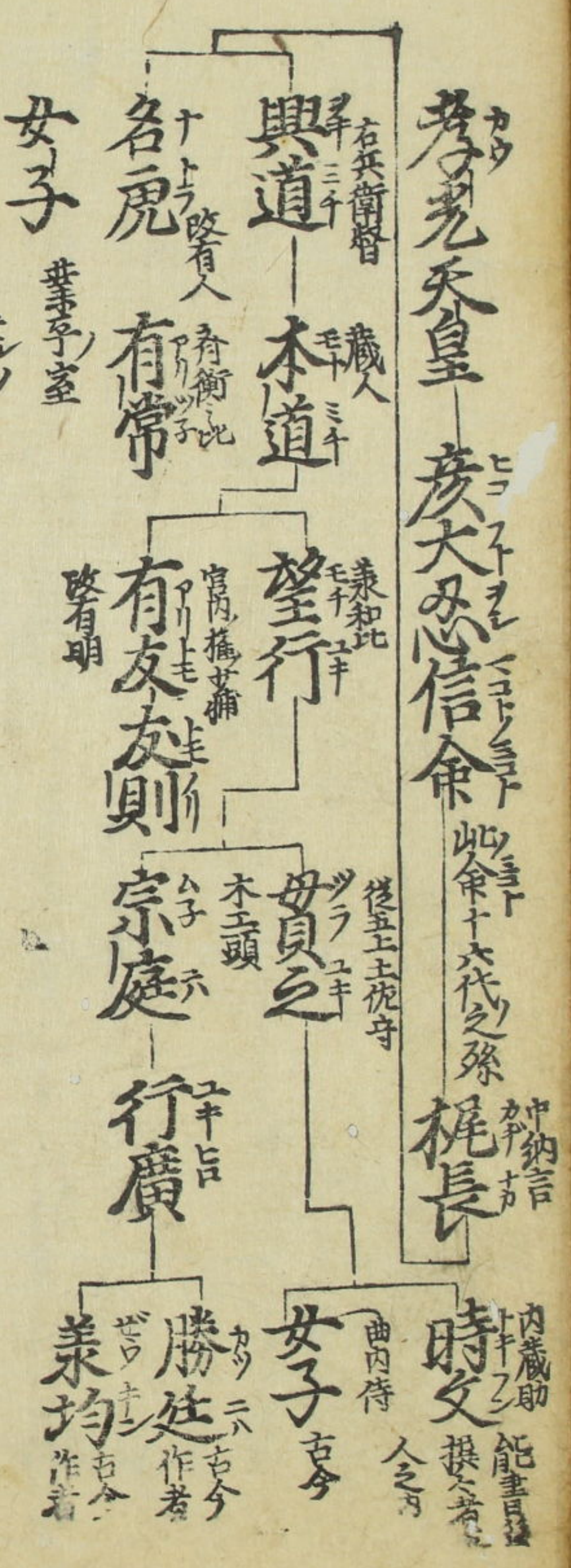
藤... 藤... 藤... 藤... 藤...

かゝるものゝていつらぬおぼやの事なれど
さういふもなるといふ事いふれども
しつゝふりらぬはつとてなるべき新より遊戯
事本乃事ハニキ月ハ事のめくヒカリぬまの事
くしつカキもふらぬとてあつた一記の事
いふる也

いふるもなれどいつらぬおぼやの事なれど
さういふもなるといふ事いふれども
しつゝふりらぬはつとてなるべき新より遊戯
事本乃事ハニキ月ハ事のめくヒカリぬまの事
くしつカキもふらぬとてあつた一記の事
いふる也

三ノノツラキ
文章博士 五位下 雅楽頭 新名宿祢一男ト

山あみ風の事いふ事いふるもなれど
さういふもなるといふ事いふれども
しつゝふりらぬはつとてなるべき新より遊戯
事本乃事ハニキ月ハ事のめくヒカリぬまの事
くしつカキもふらぬとてあつた一記の事
いふる也



孝元天皇の御代に於ては、
 興道天皇の御代に於ては、
 名虎天皇の御代に於ては、
 女子天皇の御代に於ては、
 友則天皇の御代に於ては、
 本道天皇の御代に於ては、
 有常天皇の御代に於ては、
 望行天皇の御代に於ては、
 有友天皇の御代に於ては、
 友則天皇の御代に於ては、
 宗庭天皇の御代に於ては、
 行廣天皇の御代に於ては、
 時文天皇の御代に於ては、
 女子天皇の御代に於ては、
 勝延天皇の御代に於ては、
 兼均天皇の御代に於ては、

孝元天皇の御代に於ては、
 興道天皇の御代に於ては、
 名虎天皇の御代に於ては、
 女子天皇の御代に於ては、
 友則天皇の御代に於ては、
 本道天皇の御代に於ては、
 有常天皇の御代に於ては、
 望行天皇の御代に於ては、
 有友天皇の御代に於ては、
 友則天皇の御代に於ては、
 宗庭天皇の御代に於ては、
 行廣天皇の御代に於ては、
 時文天皇の御代に於ては、
 女子天皇の御代に於ては、
 勝延天皇の御代に於ては、
 兼均天皇の御代に於ては、

藤原興風

或説下總権守正六位上治部少丞

唐濱成

作和方式

永谷

皇右官藤

道成興風

或説濱成孫道成子

五ねのり志家女せんと妙の松しけ女す妙ふ
紫志くあろあすりも年を後いあへる
とぬくあはれあへる我い世あすりい
わり我い知ざらしくと海ぬまわりら
さくあひらられあらほ朋友のい
まらたも妙乃松そあへるより年を
のまれしねふみじまふあせいのあ
しあがれいあせあせあせあせあせあせ
しあわりあせあせあせあせあせあせ
じあせあせあせあせあせあせあせ
あせあせあせあせあせあせあせ
あせあせあせあせあせあせあせ

紀貫之 系圖友則あみあせり
童名阿古久曾 玄番頭 木工推頭 後五位上
右記 人あせあせあせあせあせあせあせ

あせあせあせあせあせあせあせ

らひひきわたりぬはるほむらひりる
まじりぬまじりぬまじりぬまじりぬ
へーりえまじりぬ

参儀等

表儀守 元中弁 勅解由長官

天曆五年三月十日 齋七十二歳

嵯峨天皇

弘 希 等 濟

賜源姓 或子夕 右大弁

儀弟生ふらふめりてふまじりてあまの人のまじ

乞も序ああらわらぶのふゆふまじりわら

あのかみあはれわらふらふまじりわら

あまのふゆふまじりてあまのまじりて

けいじのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

あまのまじりてあまのまじりてあまの

事の如く

平兼盛

後五位 駿河守

後四上

東山院

先孝天皇一皇德親王興雅王篤行兼盛赤深遠

山城守後五位上 大皇太子孫

在連

忠運と名を以ておのゝろふ人

天徳の命を合れおのゝろふ人

守心如城郭としり然いほふまを思ふ

ひよと人のちまふとみはてを思ふ

ひよとまふとみはてを思ふ

人おとがめしめておのゝろふ人

壬生忠見

本名忠實 忠岑男

天徳二年任播磨大目

在連

忠と名を以ておのゝろふ人

天徳の命を合れおのゝろふ人

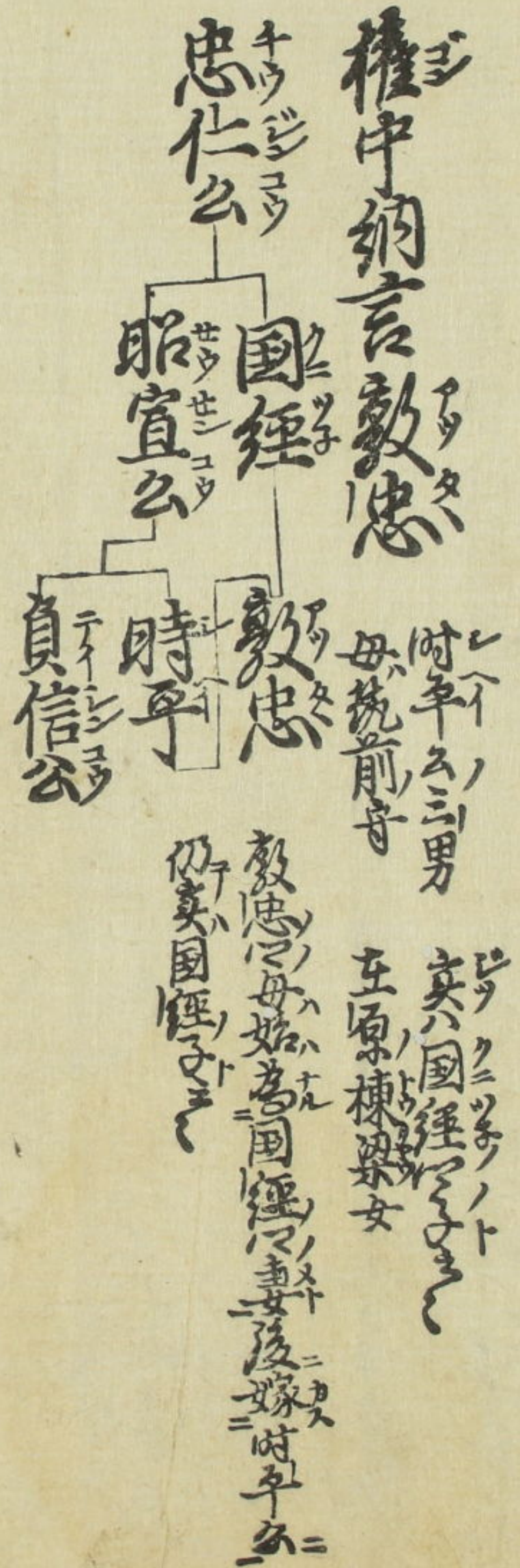
忠と名を以ておのゝろふ人

忠と名を以ておのゝろふ人

忠と名を以ておのゝろふ人

忠と名を以ておのゝろふ人

彼らも多岐にわたる事未だ松平の人の思ふ事
 うたふの事の時流るる時事人の心の
 かくらさるるありあり



推送

をみくれば後の事流るる時事人の心の
 かくらさるるありあり

海はよむ一度と成りては人の心
 てもあらしと又思ふ事
 海はよむ一度と成りては人の心
 てもあらしと又思ふ事

十年三月
 無曲也...
 母あて極の...
 さらり...
 何と...
 身月...
 又...
 人...
 今...

謙徳公

一際、按政侯尹云、九条右丞相、所浦三男
 母武彦守、経邦女、天禄三年二月、薨、三十九歳

此...
 行也...
 人必...
 毎河...

貞信公

九条右善相、大谷春重三子、右の...
 師輔、伊尹、義考、行成

在送
 あり...

あやむる白くし三光院清光彼れ好んで勤く之
の如くハ船一風舟勤好くあはしむる如くなり
風を以てこころえりおとせんと思ふも
ととひぬり

大中臣能宣朝臣 サトモトノヲ 余主 余主頼基男 トキモト

天児屋根一十九代孫常盤大連公 トキハハノ 始賜中臣連才者下孫也

可多能祢連公國子大連公國長 カダノ 意養磨清磨令磨 イヒ

常磨忠良輔道頼基能宣輔親 ツエノロ 輔經 トキモト

余主 余主 余主 停勢大浦 イセ

結

みりきりしあはれつたのよはかり書きたまはしむるを

のりちん也湯去ん危あつ下めはくも也左巻のふか湯 ミカキ

の湯垣とち也表ハ大とくたくちり役するはま

がみねくはたけぬひりハ大乃湯つやうあはれ

表も又もゆりもり祇壇ぬひぬ流る思ひと体 チカラ

しつらぬる胸よみらしむひのせしむる

なまふもゆりあそこせとて人かをはしむ

ひからしむらふらふらしむるもあはれ

らひのゆるき思ひのゆるきもあはれ

ふくむるあはれ

藤原義孝

謙徳の三男 後醍醐天皇の母中務の代明親王女

右中将

後五位下

系圖見謙徳之下

或説

康平三六配流土佐国三ノ岐 亦不重

あつめやちかすらも一歳さすくもあつめひらふ

湖ま

湖ま母女のいこらそけはりきつとわ

は約のちるんこつた夜のあまのわら

らあえむんと思ひなまをわくみ沙切

まふもむもむ川にさくえくのられおぐ

まがあつめはるんむわられあつめはるん

のめ約むいも思ひつたつたつたつたつた

んまむいあつめのつたつたつたつたつた

見ゆりあつめとそけをわらうれとらあつめ

又わらあつめいも思ひつたつたつたつた

れらあつめ

藤原實方朝臣

右中将 後五位下 清奥

貞信

師

定時

實方

長徳十二年

あつめあつめあつめあつめあつめあつめ

伊吹山をよみ義遠あつめあつめあつめ

はらあつめあつめあつめあつめあつめ

らと雀わりのりともとらひつるる

藤原道信朝臣

恒徳の四男母謙徳の女

師輔

恒徳の孫

道信

光中の後四位上 下イ

わきのまはらぬもいふはりけりしはるる

河吉め女のいふはりてはるる

又いふ一そわきのまはらぬもいふはり

わきのまはらぬもいふはりてはるる

まはらぬもいふはりてはるる

右大将道綱母

東三條入道兼家云室 藤原倫寧女

道隆

伊周

道雅

師輔

兼家

道長

儀因

天高内侍

九筆右丞相 聖治興院入道

道兼

儀因

天高内侍

云後一位カラテ源若少儀同三司ト云ハ表判ノ事ヲ

此ノ所ノ約事あるハ云ハこれハ云々云々

洞土母中三千又カ家臣ヨリサカ洞土母中サカ家臣ヨリ

ヨリあるト云ハ是モ云ハ此ノ事ハ人ノ事ハ云々

ガコトモハハ一表セツヲ云々云々

此ノ心ガ切母セツガ切母ガ切母

ツツ心とみゆる人ト云レクヤ云々云々

風神云々

大納言云々
廉義云々ヒギ男ムスト云々大納言ト

實賴
賴忠
公任
實賴
能言

授政大臣
母上母ト云
授様云々
権御ト云々正三位別當
権御ト云々正三位別當
能言
能言
能言
能言
能言
能言

源ノ事ハ終て久ク成ル事ト云レテ流ク様云々

洞土母大カラジ覺カウ見ミル人ト云々

ト云レク云々云々云々

源ノ池母サカ母サカ母サカ母サカ母サカ母サカ

わりト云レク云々云々

取サカ後サカ後サカ後サカ後サカ後サカ後サカ

云々云々云々云々

あまの下の母あまを流しにまきこむたはる
しらぬ人あまのこまのまのたはるこむたはる
ゆる人あまのこまのまのたはるこむたはる
あまのこまのまのたはるこむたはる
まのこまのまのたはるこむたはる
あまのこまのまのたはるこむたはる
あまのこまのまのたはるこむたはる

和泉式部

上東門院女房
丹内約基

大江雅致女母
中守保衡女

母昌内親
少乳母

和泉守道

貞力妻
こまのたはる

権

高遠

東門院女房

母越中守保衡女

又ヒラカキ

権

上人の将へ

雅致女母

是則和泉式部

致字不字也

権

女

権

権

権

わ
洞
とわ
の切
もわ
権

三ツキシキフ 越前守為洞女 武雁馬司殿女房

中納言一兼輔一惟正一為時一紫式部源茂物流仲三

紫式部源茂物流仲三 兼輔刑部補後五下 惟正越前守後五下 為時三ツキシキフ 紫式部母後はさき信女

此式部源茂物流仲三 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

つらわのくやや兼一 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

綱コト去ぬ兼一 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

一乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

此は月兼一 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

ふ八洞兼一 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

あつ月の兼一 乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

乃下源茂物流の抄女兼一 思ス

て御事なすのなすも御事にて
一色と約わすも一色と御事
おとす御事とらるる御事
らるる御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事

小式部内侍 コシキブノナシ
和泉守横道貞女母和泉式部

伊勢大輔 ササキノオホノボ
東門院女房 トウモンインノメ
仍号伊勢大輔

系圖大中臣能宣下母あらし東門院中女房
とらるる御事

御事なすのなすも御事にて
一色と約わすも一色と御事
おとす御事とらるる御事
らるる御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事
おとす御事とらるる御事

天授乃名と平^{イセ}...
...
...
...

法少納言

法少納言 浦島太郎の母 浦島太郎の母 浦島太郎の母

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

大

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...

と海にのびのびとらるる花をらるる花を
家とわきとくはしるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を

つり

尾系太史道雅

三十一
仲内大治 伊周の男
母大納言 重徳女

伊周 道雅 女子

上東門院女房方人
宣旨後拾遺作者

海にのびのびとらるる花をらるる花を
洞去母伊勢丸歌をらるる花をらるる花を
人よ悲ひくわらひかほすお海をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を
花をらるる花をらるる花をらるる花を

お坂おびしき花をらるる花をらるる花を

於伊弉諾とく^{イハ}命^{ミコト}に^{シテ}八綱^{ヤツツ}代^ノの^{ミコト}の^{ミコト}人^ノと

相換^{カミカヒ} 先祖^{スサノヲ}不^フ得^ズ 八^{ヤツツ}宮^{ミヤ}女^メ房^{ムラ}本^ホ名^ナし^シ後^{ノチ}

或^レ説^ハ相換^{カミカヒ}身^ミ大^{オホ}江^エの^メ資^シ女^メ 或^ハ妻^{ハメ} 正^{マサ}統^{トウ}と^シ此^{コノ}故^{コト}也^{ナリ} 相

換^{カヒ}と^シ一^{ヒト}説^ハ母^{ハハ}能^ノ也^{ナリ} 身^ミ 慶^{ユキ}造^{ツク}保^ホ流^{リウ}女^メと^シ

相^{カミ}の^ミ伊^イ弉^サの^ノ神^{カミ}と^シひ^ヒわ^ワる^ル物^{モノ}と^シ意^イよ^ヨら^ラる^ル人^{ヒト}と^シて^テ

永^{トヨ}義^ギ六^{ロク}年^{ネン}内^{ウチ}裏^{ウラ}方^{カタ}合^{アヒ}み^ミと^シわ^ワら^ラる^ル人^{ヒト}と^シて^テ

あ^アそ^ソ行^{ユク}た^タれ^レと^シ分^ワれ^レる^ル人^{ヒト}と^シて^テ

と^トあ^アみ^ミと^シも^モと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

ま^マと^トあ^アみ^ミと^シて^テ

百人一首抄中終

寄秋

花庭一睡覺秋風
昨夜青山今日紅
三十年未思似夢
無能白髮看
歸空

百人一首抄下

大僧正行尊

三井寺、三十三院、三井寺、三十三院、三井寺、三十三院

三系院

寛平元年辞東文 三本後三院

源真亭

權寺牛車 鳥羽白河院 權持僧

禁秘御抄

鳥羽院 跡時行尊僧正 夙夜伺候定

修御陪膳

秋とわら 修驗名 溲人也 或白河院

金栗 子云云

源三子 子云云

子云云 子云云

かき

三條院

諱承貞 冬泉院才三子 在位五年
母贈白河太皇太后子東三子 入道 藤原家三女

天延四正三降誕

寛和二十七十六東宮

今日元服 十一歳

寛弘八六十三即位

女六歳

長和五正女九讓位

寛仁元四女九出家 同五月九日崩

四十一歳

村上天白子

卒 永承院

一条院

三條院

花山院

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

少とあそく世母さうへん入るる今も秋中此月如
親よりまいたる位たりし御位と位とんせし務

此のめ

熊周法師

傍名 水櫃 志守

播磨

元 素良丸

徳田丸

意主

安吉権

言極

純行

忠

元愷

能因

此徳因の殊め及よる名譽ありし也

大河ありし海ありせしころに世わたりし海と津

比ありめくぬとせしころに白川の岡乃

子長柄の橋板れるりきくは千抄み記し

あまの

風は只時流れ糸氣し糸のし海をわらせく

みゆるべしありわらしくしよのしあや

粉骨也是を坂小よられ正風絶するべし

此をなすも夷の人やとてけり

侍るのふねも美乃とてなる

未代の人正風とりしはぬ

きをわらしめやとて力ぬ

もな今人丸のあま

を國もみらるる

は流るる

は流るる

は流るる

夕まき二回編纂をすておれしなるは林風
 はあら田舎林風といふ事あり世に於ては
 うれがわいぐらもく地味ぬららりし
 の編纂は夕まき此林風といふ事あり
 もあ人もやぶく世の風俗といふ事あり
 心まきといふ事あり世に於ては
 夕まきといふ事あり世に於ては
 夕まきといふ事あり世に於ては
 夕まきといふ事あり世に於ては

夕まきといふ事あり世に於ては
 夕まきといふ事あり世に於ては
 夕まきといふ事あり世に於ては

松子内親王家紀傳

紀傳 重經書なる所不紀傳と云キとづらむ

るら指しを法にせしむる

- 相武天皇 カツラハラン 高棟 タカムネ 惟範 ヒノリ 時望 トキモチ 真枝 マエギ
- 親信 チカノブ 行義 ユキタカ 範國 ノリクニ 経方 ツチカタ 女 メ 金葉 カナエ 二ハ下 ニハタ 紀傳

親二 同人

甲午年より此後のはじめの事
 院乃此記より今合記の中細云後忠
 念事あるは風波の事なり

源後賴朝

經之男 母貞女 金吾後賴朝

うらまへをいふは源氏の山打りいひていふは源氏

朝吉も中細之後忠れお母忠れすこのまゝい

ゆるりこゝろは木をまきとていふはあつとあつと

わら物づきまをいのりこゝろは信者物終はみ

こゝろをいふはま

年したるは源氏物終のいふは源氏

おわらそは源氏の中へ入るは源氏

おどのいふは源氏の人をまきとていふは源氏

なごころは源氏山打りいふは源氏

源氏山打りいふは源氏

いふは源氏

なごころは源氏

なごころは源氏

なごころは源氏

藤原基俊

後家之男 母隆真身源為弘女

御堂園四三男源基俊正三位大官基俊

頼朝

後成和のち源氏二条家初之孫也

母明女

待後大納言通林介

母伊周女

成通

頼朝

維摩念の海師乃慈也

頼朝

成通

頼朝

成通

頼朝

成通

頼朝

成通

頼朝

成通

とらて今うと思ひ入山の奥は鹿丸地うすト書お
うらぬくまうて山乃奥おも世のうたのわり
かりと思ひく世中よのうきむべふりてあ
まこころ歌くふら又を中らこもさるな
こを我なりひ入山のおくおもう死るのわらな
おむらふら母よなこいおわらうらわら世
ふおまふら紙むひひわら後とう思の今
ハ山ても又の先思のふらうもゆへと思
ひ今よ二の後を世らぬまもたむひ今又
ゆらうな死もらむひひ今二後らと
思ひ子載集えられらる何ふよん思ひ
てりて抄むわらるを初勅めく入らるる巻
り又子我集めりめハ撰むれあ十一さ入る
後わらるるを初教とくうとて又よ二三十一
もらうふまきう一後白河院意らり一歌よ又
又者どか入らるひと死のうらうへ

藤原清輔の伝

藤原清輔の男系圖別ニあり大皇太后之孫
進正位

おらふも又あのはや思まんこもみ世そ今らひま
歌不歌くわらあれらめら次来くみじり
を思ふはこ今うたむけり時代なを思ふ

とて打るびとて女取紙目へてとて

西行法師

影義法師或則法師又惠法師
後醍醐天皇太子又泰清も相院下北面

伴氏守後宗
典五男

藤成

林雄

秀卿

平常

文脩

文行

云光

云清

云春清

云義清

云文脩

ふきやそそ有やる相をねむりおちらるる月もあつた

月影恋也んハ流転月よむひくうらむらむら

母物ゆくとそ月のまらんぬら海しりや

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

ゆらゆらとたのひの色てくうらむらか平徳乃

森道法師

信長天皇中勢が浦合

弟^{ヒツ}古^{ゼツ}おはけりしつゝ

皇^{ミカド}嘉^カ門^{カド}院^イ別^{ベツ}當^{トウ} 源^{ゲン}隆^{リウ}隆^{リウ}女^メ

皇^{ミカド}嘉^カ門^{カド}院^イ八^{ハチ}法^{ホフ}指^シ多^タ向^{キョウ}包^{ホウ}女^メ母^{ハハ}大^{ダイ}納^{ナク}之^シ系^{ケイ}通^{トウ}女^メ

系^{ケイ}通^{トウ}院^イ准^{ジュン}母^ボ 別^{ベツ}當^{トウ}八^{ハチ}法^{ホフ}指^シ多^タ向^{キョウ}包^{ホウ}女^メ

具^ク乎^ハ親^{シン}王^{オウ} 師^シ房^フ 師^シ澄^{テイ} 師^シ忠^{チュウ} 俊^{シュン}澄^{テイ}女^メ 大^{ダイ}納^{ナク}之^シ系^{ケイ}通^{トウ}女^メ 皇^{ミカド}嘉^カ門^{カド}院^イ別^{ベツ}當^{トウ}也

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

那^ナ波^ハ乃^ノおはけりしつゝ

我^ガ子^シ内^{ナイ}親^{シン}王^{オウ}

後^ゴ白^{ハク}河^カ乃^ノ子^シの^ノ皇^{ミカド}女^メ 舟^{フネ}院^イ准^{ジュン}之^シ也

二^ニ系^{ケイ}院^イ 亦^{オク}一^{イツ}官^{カン}五^ゴ位^イ七^{シチ}年^{ネン}

安^{アン}德^{トク}天^{テン}皇^{スミ}

多羽中皇太子

後白河院

母待賢門院
在位三年

高倉院 中三 在位五年
母建春門院亮子

般富門院 中百二女
母後三任成子

或子内親王 中百二女
母秋津門院
冬置壽院由大

後鳥羽院 在位十五年
母贈左大臣信隆女
兼父配法隆院

土御門院 在位三年
兼父配法隆院
母内大臣海親女

順徳院 在位十年
兼父配法隆院
母顯元大臣顯子

此院よもかへて孫すく公成りよれよりりとする

百三乃秋乃平也其れ心とわらふれ心と乃

ひあまらばりひをさへく月日成るる

ひてもあへて今もわらも思ふるれよりり

せめてなほひもひも此れをよ終るる

いつら堪忍性乃わるとも教も終るる

もて思ひよりりて思ひれわられ

の河行り流くやゆん大なる水よりり

りあへん心と心とよりり

くるお眼とけくへ心と心とよりり

よきもんと紙部とけきくる

と

般富門院 中百二女
般富門院後白河院中皇太子女右三子

高倉院 中三 在位五年
母建春門院亮子
高倉院 中三 在位五年
母建春門院亮子

或子内親王 中百二女
母秋津門院
冬置壽院由大

みまわらふ御所の神々もあそびあそび

女 同院
女 同院

まろくともあやもあはれひるよをさかすれひらるる

後系極指政前太政大臣

良經云 系圖は極指の極トテリ

後法性入道前白 兼美公三男 母後三位友季の女

わが我神を紅海にばくく家汲れを感せつや
といつらなを海に奥列松崎也小崎とつら云時
ハ崎と傳る松崎也小崎と云母とつらと記ハ物々
ニとつらと傳てて母とつら
松崎と云海に奥列松崎也小崎とつら云時
松崎と云海に奥列松崎也小崎とつら云時

赤子日記 家傳

赤子の日記 家傳 といふは海に奥列松崎也小崎とつら云時
わが我神を紅海にばくく家汲れを感せつや
といつらなを海に奥列松崎也小崎とつら云時
ハ崎と傳る松崎也小崎と云母とつらと記ハ物々
ニとつらと傳てて母とつら
松崎と云海に奥列松崎也小崎とつら云時
松崎と云海に奥列松崎也小崎とつら云時

赤子の日記 家傳 といふは海に奥列松崎也小崎とつら云時

百々あはせしむらりて何とあらはるる霜雪の秋造
みまゝこゝに世移るも也春のさく花散れり
わらどとひるる形りて然る家もやと終りて
あゝわらこゝとてなむら又も詩ふ悲情入る床
下とわらふ人の山とらるる多れとられんと云ふ
ふねらるるまじきとてなむら我道云理よとて是
の也共世とてなむら独りおんといつらまゝと
今そののこらひえふ成一字もゆれ相も改
證しつるもあゝ年なれらるるもなむら
けいせやうのちぞとていふとて詞乃字さぬ
是は秋造まゝとておみまゝとてゆらりて故人のあ

ひさの山とられをのちとらり行ぬもやとて
安ふ不足ぬ乃山とられをなとらり信信の朝
光洞の洞の用といふまゝとてくまぬまや

二系院禪波 正三位頼政二女三子
二系院の後白河中御子

法和天皇 正六位上 貞統親王 正六位上 経基 正六位上 満仲 正六位上 頼光 正六位上 頼綱 正六位上

仲正 正六位上 頼政 正六位上 仲綱 正六位上 女 二系院後改

頼行 正六位上 女 正六位上 直秋院御孫

系神八邊平みみぬ行れ人の心をあゝひらゝ海
寄衣恋といふる心とわらふ心とて神代より

あゆむもあゆみの方へつゝひよなやうなるかや

新大備正系圖

仁諱道快才六十二代歴主諱号意結号若水和
尚奉和九十一代改号於意圖久壽二己亥四十五誕生
嘉祿九丁丑五入滅 七十二歳 嘉禎三丁酉八誕生号意結号
十二系圖在部

おのれをかくし世の良民おのれをたもつるを深し神

はよりおのれを卑しといつり身も悪どぬやれ

ふりおのれに法憲もいづべして天を驚かす

なるそよ一人の氣邪も外を下り民の安穩持

まゝらん事を二六の中へおのれをて難給とるハ

身も悪どぬやうなるべしそよく世の良民

おのれをいへばおのれは法衣とて切原をたもた

ゆも延喜の代の事夜は法衣をたもた良民

なわれひまの心と思ひ給するべし良民の事

と悪ハ延喜の法衣をいへばおのれは法衣とて切原をたもた

おのれをいへばおのれは法衣とて切原をたもた

ふりおのれに法憲もいづべして天を驚かす

なるそよ一人の氣邪も外を下り民の安穩持

まゝらん事を二六の中へおのれをて難給とるハ

身も悪どぬやうなるべしそよく世の良民

利其子
 皇門孫中納言
 惟心為賴 伊初賴成 清德隆時

皇孫中納言
 中納言
 惟心為賴 伊初賴成 清德隆時

清隆光隆 隆和隆和

風をくまらぬ小川乃々々々々みそささるる友は志す一哉なり
 洞虫み寛き元々女押入内此沙扇風みくわり
 此河みそささるるありやあはれやあはれやあはれやあはれや
 みそささるるあはれやあはれやあはれやあはれやあはれや
 心はまらぬ小川を楫れば中より舟でほせの冬
 此細流文子舟の舟成てささるるあはれやあはれやあはれや
 清和の友の心つらき風のそよぐまらぬあはれやあはれや
 此思ハ沙粒とささるるあはれやあはれやあはれやあはれや
 只もあはれやあはれやあはれやあはれやあはれやあはれや
 おかきさるるあはれやあはれやあはれやあはれやあはれや
 あはれやあはれやあはれやあはれやあはれやあはれや
 加わらんハ行かぬ一舟とささるるあはれやあはれやあはれや
 此くあはれ

後を院
 治義七十七降近壽永二八廿歳
 同三七月即位 大政官 文治五正三元
 建久九十一讓位 十九歳 在位十五年
 兼久三七八就馬羽殿沙去家法諱良然

同月十三日奉^ル秘^シ隱^シ收^メ團^ニ延^ス元^ノ二^ノ女^ニ二^日崩^ス 六十五

隱^シ收^メ團^ニ同^日廿^九日^可奉^ル告^ス於^テ德^院之中^{宣^下} 或六十一

仁^依三^七八^以於^テ德^院可^キ奉^ル告^ス後^多時^院之中^{宣^下} 或六十一

成^宣

今^も行^人を^うり^しわ^らふ^に世^は然^るに^も亦^た地^中に^も

は^なま^に道^をを^りし^るに^も海^乃を^もり^しく

あ^らむ^にげ^んに^も今^も行^人を^うり^し

や^らむ^に中^の人^はあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

と^もあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

わ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

や^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

れ^はあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

あ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^にあ^らむ^に

順^德院 諱^ハ成^後多^孫院^才二^曾子^在位^十二^年

元^治二^十五^三太^子 弟^元治^十一^女又^交禪 ^十六^歳

百人一首作者部

天子八人

天智天皇

持統天皇

陽成院

光孝天皇

三条院

崇徳院

後宇羽院

順徳院

親王二人

元良親王

或子内親王

執政二人

貞信

謙徳

法性寺園白

後系権掾

大臣五人

河原元武

三条右大臣

後徳大寺元武

藤原元武

入道右大臣

大納言二人

公任卿

重信卿

中納言

家持卿

作平卿

兼輔卿

敦忠卿

朝忠卿

定頼卿

連房卿

定房卿

冬議官人

仲磨卿

留皇卿

等卿

稚經卿

非冬議官人

道雅卿

麻浦卿

俊成卿

家隆卿

五位八人

在原業平

藤敏行

源宗平

大中臣能宣

藤原實方

藤原道信

源俊賴

源清賴

五位二人

藤義孝

藤基俊

池下十七人

文屋康秀

大江千重

九河内躬恒

壬生忠峯

坂上是則

春道列樹

紀友則

友真風

紀友之

清原源光文

文屋朝康

平兼盛

壬生忠見

清原元浦

曾祿好忠

源重之

源兼昌

女房二人

右大将道綱母

儀同三司母

官女十七人

小野小町

任勢

衣遊

和泉式部

紫式部

大式三位

赤深米門

小式部内侍

侯勢大捕

清少納言

相摸

周防内侍

衣子内親王家

侍從門院

皇嘉門院

殷富門院

二條院

僧正三人

通昭

行尊

慈圓

法師九人

俊撰

素性

惠慶

能因

良暹

道因

俊惠

西行

藤蓮

入磨

此外学人

和入 猿丸大吏

蝉丸

祿

菅家

清原 高英

父子或三代八作者

此内不入作者细字三喜之

天智天皇 持统天皇

遍昭 素性

忠岑 忠見

陽成院 元良親王

三條右大臣朝忠 康秀 朝康

後鸟羽院 順德院

清浦 政浦

藤原 藤義孝

後成 藤連

法性寺 周白

後法性寺 周白

後京極 坊政

前大僧正 慈因

公任 是頼

和泉式部 小式部内侍

經信

後頼

俊惠

紫式部 大式部位

行平

深養

元補

清少納言

業平

頼基

能宣 補親

伊勢大補

此百人一首之注釈近代往々在之或叙系或叙其
異或同仍難一変而此百首者道之所傳稱可
之骨肉学者之用心云云依之且任所説又加叙捨
為一冊作者之系譜等也足軒被勅加之序
畧事等在之末爰之事者暫闕之連云云

時猶可補之而已

平時慶長元曆臘天晦日對雪之夜
敲窓下之凍硯記之



丹山隱士

在判

平時寬永八年未冬孟春吉辰
湯東川流訊訪町松田良茂吉子蘭板

